

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	きらめき守谷夢彩都フェスタ支援事業	担当課	経済課	
総合計画	政策	活力にあふれるまち	計画期間	平成17年度～
	施策	集客資源の創出と充実	種別	任意の事務
	基本事業	特色あるイベントの開催	市民協働	実行委員会
予算科目コード	01-070102-09 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
つくばエクスプレスの開業を機に、市民の方々の交流促進による地域振興や、守谷市を広くアピールするために開始した駅前イベントで、平成22年度から守谷市商工まつりと統合し、商工会を主体とした実行委員会への支援を行っている。	毎年9月下旬の2日間、守谷駅西口駅前広場を会場として実行委員会により開催するイベントを負担金により支援する。 会場では、市内中学校の吹奏楽演奏、和太鼓、よさこいソーラン踊りなどのステージ、お楽しみ抽選会等の催しのほか、地元特産物や地域産業を支える企業等の出展ブース、ビアステーションなど多彩なイベントを実施する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
地域産業を支える商工業者や市民活動のPRの場として、実行委員会が開催する守谷市商工まつり～きらめき守谷夢彩都フェスタ～を支援することにより、地域の活性化を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
地域資源やイベントを活用して、市内における賑わいを創出する。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
今年度は昨年度のような台風接近による影響もなく、2日間とも天候にも恵まれ、来場者数は2日間で48,600人だった。 来年度は、今年度の反省点や課題を整理し、更に来場者が増えるような実施内容を検討することが必要である。	令和元年度 11月 今年度の反省、課題整理
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
実行委員会において、今年度の反省点や課題を整理し、実施方法や実施内容について協議を行う。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	負担金による支援事業であるため、現状維持とする。

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度の取組（評価、課題への対応）
商工業者や市民活動発表PRの場として開催しているイベントであり、負担金による支援事業として支援する。	負担金の交付により、事業支援を行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
来場者数（人）	87,000.00	28,700.00	48,600.00	0.00	75,000.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	市のイベントとしての認知度は高く、定着したイベントであるが、天候により来場者数は増減がある。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	地域産業を支える商工業者や市民活動の発表PRの場として開催しているイベントであるため、継続して支援する。				

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	2,699	2,699	2,699	3,150	3,150
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	2,699	2,699	0	0	0
	一般財源	0	0	2,699	3,150	3,150
正職員人工数（時間数）		421.00	396.00	301.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,726	1,653	1,235	0	0
トータルコスト		4,425	4,352	3,934	3,150	3,150

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	守谷ハーフマラソン開催補助事業	担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	活力にあふれるまち	計画期間	昭和59年度～
	施策	集客資源の創出と充実	種別	任意的事務
	基本事業	特色あるイベントの開催	市民協働	補助事業
予算科目コード	01-100501-08 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>マラソンを通じて市民相互の交流と、市の知名度向上を図るため、昭和59年から実施している大会に対する補助事業として開始した。</p>	<p>大会は守谷市体育協会が主催し、市から補助金の他、参加費及び企業協賛等により実施している。毎年2月上旬に開催しており、ハーフマラソン・5km・3km・2kmの男女年代別の種目を設定し健脚を競い合う。ハーフマラソンは、日本陸上競技連盟公認コースで茨城陸上競技協会の公認大会となっている。</p> <p>大会運営の係員は約800名で、体育協会会員や市民ボランティア等の協力を得ている。</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>市体育協会主催による「守谷ハーフマラソン」開催に対して補助することにより、幅広い年齢層の人々に健康増進をもたらすとともに、全国からの参加者に守谷市をPRする。</p> <p>また、大会運営に多くのボランティアが参加しており、市民相互の交流を深める機会になっている。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>地域資源やイベントを活用して、市内における賑わいの創出に努める。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<p>参加者は上限数で推移しているが、企業協賛金を含めた大会運営経費の確保が課題である。</p>	<p>4月～7月 他大会比較検討 8月 大会概要決定 10月 大会ボランティア募集開始 1月 参加賞等事前送付 2月 事業実施 3月 事業報告</p>
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
<p>今大会から高校生以上5,000円（前回4,500円）小中学生が2,800円（前回2,500円）となった。値上げの理由は、消費税の増税等によるものである。また、経費削減の観点から、参加賞の業者を変更した。</p> <p>今後も、他の大会を参考に、大会のサービス内容や参加賞及び参加費の比較検討を行う。</p>	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<p><input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減</p>	<p>大会運営としては、主に参加費で賅っている。協賛企業における協賛金や協賛品もほぼ横ばいであり、また参加者からは、距離別による参加費の金額設定等の要望もあることから、負担額は現状維持とする。</p>

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度 of 取組（評価、課題への対応）
<p>従来窓口のみだった「市民優先受付」をインターネット受付と併用したことで、窓口受付事務量の削減に繋がった。 参加者は上限数で推移しているが、企業協賛金を含めた大会経費の確保が課題となっている。</p>	<p>守谷ハーフマラソン実行委員会（市体育協会主催）により、令和2年2月9日（日）に第36回守谷ハーフマラソンを開催した。 運営ボランティアの駐車場及び集合場所を分散し、従事場所への移動がしやすくなるよう配慮した。 また、会場内では、「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に貢献するため、不要になったスポーツウェアやタオル等を無料で引き取るコーナーを設置し、回収後、開発途上国人々に届ける取組を行った。</p>

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
参加申込者数のうち完走者数（人）	5,160.00	4,995.00	4,919.00	5,300.00	5,300.00
市内参加申込者数のうち完走者数（人）	1,821.00	1,723.00	1,475.00	2,000.00	2,000.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	<p>申込者は若干減少したが、参加費の値上げ（高校生以上5,000円（500円アップ）、小中学生2,800円（300円アップ））と協賛企業の新規開拓、参加賞の見直しにより、収入確保と経費削減を図り、安定した運営を行うことができた。</p>				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	<p>参加者から距離別参加費の設定要望があるため、総事業費（収支予算・決算）を検証しながら、運営委員会が中心となって検討していく。 今後も参加者及び運営ボランティアの意見をもとに、魅力ある大会を目指して取り組んでいく。</p>			

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	2,000	3,000	3,000	3,000	3,000
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	2,000	3,000	0	0	0
	一般財源	0	0	3,000	3,000	3,000
正職員人工数（時間数）		1,941.00	2,154.00	2,187.00	0.00	0.00
正職員人件費		7,958	8,993	8,973	0	0
トータルコスト		9,958	11,993	11,973	3,000	3,000